

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会エンブレムの使用中止(その2)について

東京2020エンブレム選考に向けた準備会の設置

○9月18日設置 3回開催(9月18日、22日、24日)

○メンバー

座長 宮田亮平 東京藝術大学学長

- ・杉山 愛 スポーツコメンテーター/元プロテニス選手
- ・夏野 剛 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
- ・但木敬一 弁護士/元検事総長
- ・マリ・クリスティーヌ 異文化コミュニケーター
- ・山本 浩 法政大学スポーツ健康学部教授/元NHKアナ

<議論の内容>

- ・前回の反省点
- ・新たなエンブレムの選考において踏まえるべきポイント
- ・エンブレム委員会の人選

※9月28日の理事会へ「新たなエンブレムの選考に向けて」を報告

東京2020エンブレム委員会の設置

○9月28日設置

○第1回: 9月29日、第2回: 10月6日
10月以降、順次開催

○メンバー

- ・委員長 宮田 亮平(東京藝術大学学長)
デザイン、芸術、法律、経済、スポーツ、インターネット
などの分野から 計 19名

○役割

- ・新たなエンブレムの選考
(応募要項の決定、審査、エンブレム案の決定等)

旧エンブレム策定にかかる反省点

【反省点のポイント】

- 大会エンブレムとは何かという議論を行わないまま、専門的なデザイン性の高さを重視する閉じられたエンブレム選定に入ってしまったこと
- 組織委員会内の情報共有、意思決定のあり方について
大会エンブレム策定作業は一部の職員のみによって進められ、十分なチェック機能が働かなかった面があったこと

新たなエンブレムの選考に向けて

【踏まえるべきポイント】

- エンブレムの考え方について
 - ・エンブレムにどのような思いを込めるのか基本的コンセプトを検討し、明確に伝えること
- 応募要件について
 - ・法的な責任の観点から、年齢に関して一定の制約を設ける必要はあるが、可能な限り広く国民参加できる仕組みを用意すること
- 審査方法について
 - ・秘匿性は考慮しながら、できる限り情報発信すること
 - ・商標、著作権への対応について、専門的観点から検討すること 等

【今後の方向性】

- ・「だれもが考え、応募でき、納得して選んだ、みんなのエンブレム」を世に送り出すことが必要。
- ・各界の英知と経験を集めて、透明性の高い議論と手続のうちに、皆様に愛され、ときめきを共有し、世界に発信できる新たなエンブレムを作成する。